

当大会は、青少年の健全育成に対する道民意識の醸成を図るため開催し、今年は、全道から約400名の青少年育成関係者が一堂に集いました。

午前中は、青少年の育成に功績のあった方々の各表彰式や、全道の地区代表16名の中学生による「少年の主張」全道大会を開催しました。

午後は、金間 大介 氏（金沢大学教授／東京大学客員教授）による基調講演の後、活動発表では、道内で活躍する選手達のブレイキン対決や、キッズダンサーによるパフォーマンスが披露され、大会最後は、「少年の主張」の結果発表・表彰等が行われ、大会を締めくくりました。



北海道社会貢献賞（青少年健全育成功労者）表彰式

長年にわたり、青少年の健全育成活動に献身的にご尽力された14名（当日は10名出席）の方々に、北海道の野澤子ども応援社会推進監から北海道社会貢献賞が贈られました。

受賞者の方々は、日々の育成活動を思い起こしながら、今後の活動に向けて、決意を新たにしていました。



北海道青少年基金事業顕彰表彰式

「太平南剣友会」（札幌市）、「厚真けん玉クラブ」（厚真町）が受賞

地域づくりに貢献する優れた活動を展開している青少年や青少年団体の功績を讃え、当協会の山谷会長から北海道青少年基金事業顕彰として、「太平南剣友会」（札幌市）と「厚真けん玉クラブ」（厚真町）に賞状と記念品が贈られました。受賞された中西代表（太平南剣友会）と斉藤代表（厚真けん玉クラブ）は、これまでの活動が認められ、喜びと充実した表情を浮かべ、今後、更なる活動の飛躍を誓いました。

* 2団体の功績につきましては、9ページをご参照ください。



左：太平南剣友会 中西代表
右：厚真けん玉クラブ 斉藤代表

活動発表 「ブレイキン」 パフォーマンス presents by 北海道ブレイクダンス協会

パリオリンピックで新競技となった話題の「ブレイキン」。活動発表では、道内で活躍する3選手が、即興の生ブレイキン対決を披露しました。客席の参加者にジャッジしてもらうなど、会場は大きく盛り上がりました。

その後、札幌市内ダンススタジオで練習を重ねるキッズダンサー達が全身を使ったアクロバティックなダンスの発表があり、今の若者・子ども達が情熱を持って取り組んでいる“想い”が伝わってきました。



Lil Yuu 選手
(リルユー)



A2ya 選手
(アツヤ)



shachi 選手
(シャチ)

先生が求める答えを提供する若者たち — いい子症候群の実像 —

金沢大学教授／東京大学客員教授 かな ま だいすけ **金間 大介 氏**



大学で教鞭を執る金間さん。日々の大学生とのやりとりやさまざまなデータに基づいて、今の若者達の実像を明らかにし、彼らとどう接するのが良いか、貴重な示唆を与えていただきました。

今の若者達

① 安定志向が止まらない～リクルート就職みらい研究所の調査から

「歴史や伝統がある企業」、「安定し、確実な事業成長を目指している企業」 若者に働きたい組織を聞いたものです。そんな若者を企業の側から見ると、「素直でまじめ」「しっかりとした受け答えをする」と評価する一方で、「何を考えているかわからない」「自らの意識を感じない」と映っています。

② 新入社員にとっての理想の上司は～日本能率協会等の調査から

理想の上司像を聞くと、仕事について丁寧に教えてくれて、若者の意見や要望に対して自ら動いてくれ、“叱る”などでもなく、仕事の結果に情熱なども持たず…。「何言ってるの。こんなんじゃ仕事になるわけない。」って感じですね。でも、これがデータから見える若者です。『してもらい上手』今の20歳代は、そう評されるのです。



拒否回避欲求

若者心理の解釈の一つです。①どんなに弱い拒否でも怖い。②拒否されそうな行動は最初からしない。③「ちょっと変わっている」「何それ？」って思われるのは怖い。承認欲求は強いけれど、この拒否回避欲求はそれを上回るんです。授業中に質問タイムを取るとします。皆ちゃんと聞いているので、質問したいことはある。「良い質問だね！」と言われる期待も。でも、ここで質問をすると、「何だ、あいつ、ここで質問するのか？」って思われたくない（拒否の回避）から、、、じゃあ質問は辞めよう、そうなるんです。これが拒否回避欲求。リスクを避けるんですね。

若者の幸福度意外に高いが、不安も

学生2200人に聞きましたが、挑戦しないと思える今の大学生の幸福度は意外に高い。10段階評価で6～7。5年後も幸福度は高いと感じています。一方で日本の将来については悲観的で、5以下が8割を占めます。そして“自分はこのままでいいのか”と、漠然とした不安を抱えている。

こうした大学生の半分は、「穏やかに暮らせれば、日本は衰退してもいい」そう考えています。

私たちは今、どうしたらよいのか

そんな低いモチベーションや不安を持つ若者をどうしたら良いか。不安を解消してあげたい、そう考えますよね。でも、僕の提案は「不安はそのままにしませんか。」ということなんです。不安や意欲などの「心」よりも「行動」を見てあげて、成長することやそれを実感することを支援してみるんです。

意欲が低いと言っても、何か行動しているのです。若手職員が会議資料を作りました。“作れることは分かっているので、何も言わない”のではなく、会議の後で「資料、見やすかったよ。サンキュー」そう伝えるんです。これを1日1回やってみませんか。それで自信が芽生えるのです。ただ、「資料、素晴らしかったぞ」って皆の前で褒めるのはダメですよ、辞めちゃいますから。

小さな情報フィードバックを

日本能率協会のアンケートで、自分が成長するために上司に期待することを聞きました。一番多かったのは「成長や力量に対する定期的なフィードバック」。これ本音だと思います。

話しかける時には評価や指導になってしまいがちですが、フィードバックは機械的にです。理想は万歩計。歩数しか表示しませんよね。「ありがとう、助かったわ。」で良いんです。「やれるのは当たり前。」と無反応なのは悪です。「俺、何かやらかしたか？」と若者は考えますからね。

この小さな情報のフィードバックを週に2～3回返すこと、成長の応援にはそれが大切なんです。

